

九州 研修プログラム

「発達障害児のためのモンテッソーリ教育」

日本モンテッソーリ発達支援研究協会

I. 研修の全体像、および目標

今現在、発達障害を持つ子どもは、幼稚園・保育園、小学校のクラスに1人か2人が在籍しているといわれています。その子たちは、暴言、暴力で友達との間でトラブルを起こしたり、いつも1人で遊んでいたり、場面が変わるごとにパニックを起こすなど、クラスを崩壊させてしまう要素を持っている場合が多くあります。

この子たちは、発達障害の障害特性から、生きづらさ、生活しづらさ、困難さを抱えているために、上記のような問題を引き起こすことが考えられます。つまり、本人たちも自分の障害特性から来る問題、困難さにどう対処すれば良いのか分からない状況に困っているのです。

そのため、彼等の困難さの原因を読み解き、支援することがとても重要です。そうすることにより、彼等もまた、落ち着き、安定した生活を送ることができ、学ぶための土台が整えられるのです。

これは、モンテッソーリ教育の現場においても同じです。彼等が、落ち着き、安定することができなければ、モンテッソーリ教育でも学ぶ事に支障が出るのが考えられます。

モンテッソーリ教師には、この困難さの意味を読み解き、支援をすることが要請されています。この研修では、まず、モンテッソーリ教育の現場で、彼等の困難さをどう読み解き、支援するかを学びます。

そして、次に、インクルーシブモンテッソーリ教育について、環境構成(ユニバーサル・デザイン)、個人・グループ・一斉提示の際のポイント、教具の提示、提供の際のポイントなどを学ぶことが必要です。

このように研修は、2部で構成されています。Ⅰ部は、基礎編です。Ⅱ部は、モンテッソーリ教育編です。

Ⅰ部の基礎編では、生活しづらさなど、安定し、落ち着いて生活するための困難さを読み解き、支援するための知識と方法を学びます。

発達障害児のための理論と方法を系統的に学び、子どもの困難な行動の意味を読み解き、落ち着いた、安定した生活ができるための支援ができるようになることが目標です。

Ⅱ部では、それを踏まえ、モンテッソーリ教育の中で、彼等が学びやすい支援について学んでいきます。

今回は、Ⅰ部基礎編について、学びます。

Ⅱ. カリキュラム編成（基礎編）

(1) 発達障害児のためのモンテッソーリ教育4つの大きな柱

発達障害児の支援をする場合には、子どもだけを見るのではなく、子どもの周辺を含めて Total に見る必要があります。

その時の視点は、大きく次の4つです。

A 発達支援

B 親支援

C 地域生活支援

D 障害理解、条約等の理解

子どもの支援は、この4つを総合的に行う事が必要です。

但し、これから学ぶ場合には、下の障害理解、条約等の理解から上へ、系統的に進めていくことが大切です。

まず、障害を理解する事が大切です。それは、私たち誰もが差別意識を持っているからです。そのため、障害児の支援が、上から下へのかわいそうだから、助けて上げるという意識によってなされていることが

多いのです。そうすると、すべてをやってあげてしまい、その子の自分で考える力、自立心などをみな潰してしまうなどの危険性があります。

ですから、人的環境としての私たちは、障害とは何か、価値観などについて、日頃より考えておくことが必要です。

次に、地域生活支援ですが、障害児のいる家庭では、様々な問題が起こります。離婚、夫婦の問題、両親の精神障害、父親の失業、虐待など、これらの問題を解決しないと、障害を持った子どもを安定して、落ち着いて育てることができません。ですから、生活についての支援をすることが必要です。

また、法制度などに穴があったり、不備がある場合には、そこを埋める活動や支援をしながら、法律や制度を作ったり、改正したりするために国や地方自治体へ働きかけることも必要です。

さらに、障害児者差別についての、社会変革への活動も必要です。例えば、障害についての講演会の開催、あるいは、障害者が行っている楽団の演奏会などの開催を通して、広く障害について、知ってもらったり、考えてもらう啓発イベントなどが大切です。

次の視点は、親支援です。障害のある子どもを産むこと自体、親の価値観が大きく揺さぶられる出来事です。ここから親がどうやって我が子の障害を受けとめていくのか、つまり障害を受容することができるのかを支援することが必要です。そうしなければ、親は、絶えず人からの差別を意識し、落ち込んでしまったり、大切な我が子の子育てに消極的になってしまいます。また、親の孤立化も大きな問題です。

障害を受け止め、新たな価値観を創造し、一人の個としての我が子を育てることに大きな意義を見いだせるような支援が必要です。

今述べてきたような教師の障害理解、地域生活支援、親支援という土台の上で、発達支援をするとき、子どもの豊かな成長・発達の可能性が高まります。

また、これらは、すべて関連しています。

親が明日の生活にも困るようであれば、子育てどころではありません。また、親が障害の我が子を受け止め、前向きな人生を歩んでいくことができなければ、いくら外側でよい発達支援をしても子どものよりよい成長・発達は、望めません。その反対に、子どもの成長・発達する姿が親を刺激し、親がポジティブになるような場合もあります。

そして、教師が、絶えず障害を理解しようとし、無意識的に行っている差別に気づき、一人ひとり子どもの人権を意識していかなければ、よりよい支援はできないでしょう。もしそうでないなら、何をしても子どもからの反発に出会うことになるでしょう。

そして、「研修の全体像、及び目標」でもお話ししたような、子どもの行動の意味を読み取ることはできません。なぜなら、目が曇ってしまっているからです。

ですから、私たちは、AからDまでを系統的に学ぶことが必要です。

(2) カリキュラム内容

カリキュラムについて説明します。全部で、7日間の研修になっています。

「発達障害児のためのモンテッソーリ教育プログラム」についてがあります。これは、この研修についてのガイダンスです。

上の4つの柱に従ってカリキュラムが編成されています。

- ①障害理解、世界の障害児支援の流れ、条約等
 - ・障害児・者差別について（優生思想の問題）

- ・インクルーシブ教育とモンテッソーリ教育
- ・ICF とモンテッソーリ教育について
- ・支援者としての私たちが障害児と向き合うとき必要なこと

②地域生活支援

障害児を取り巻く環境として、障害児の家族、地域等で起こっている問題を一般的な観点からお話します。

- ・障害児を取り巻く環境

③親支援

- ・障害児を抱える家族の心理

④発達支援

<事例について考えよう>

まず、最初に、事例問題を出します。それについて、皆さんの今の力で考えて頂きます。

最初は、うまくできないかもしれません。しかし、この研修を通して、少しずつ、子どもを見る目が養われていきます。それを実感してほしいのです。

- ・事例の提示
- ・考えてみよう
- ・事例解説

<主な発達障害児の障害特性>

- ・発達障害とは、
- ・自閉症スペクトラムの障害特性Ⅰ～Ⅱ
- ・注意・欠如多動症の障害特性
- ・限局性学習症

<発達障害児の行動を理解するための基礎理論>

- ・感覚Ⅰ～Ⅱ
- ・運動Ⅰ～Ⅱ
- ・知覚-認知Ⅰ～Ⅱ
- ・言語Ⅰ～Ⅱ
- ・対人的相互関係Ⅰ～Ⅱ

<発達障害児の行動を理解するための方法論>

- ・方法論Ⅰ～Ⅲ
- ・事例検討

<発達障害児の行動理解に基づく支援方法論>

- ・支援方法論Ⅰ～Ⅱ

<事例について考えてみよう>

- ・事例問題から仮説の立案→
- ・事例の提示
- ・考えてみよう
- ・発表
- ・事例解説

最初にケースについて考えて見たときと、学んだ後での違いがあるだろうか。

<クラスにいる子どもの事例を自分で検討して見る>

- ・事例検討

研修後、実際の現場では、学んでいないケースが出ていくことが推測されます。しかし、ここで学んだ方法論、発達障害児の見方、考え方を使って、不足している知識は、本やネットで調べ、その子の行動を理解する事ができるようになります。また、その行動の意味を踏まえ、発達障害児の障害特性をもっと深く学ぶことによって、さらにより支援方法のアイデアを出せるようになっていくのです。

後は、毎日の実践の中で、個々の事例を積み上げていくことです。それがキャリアになり、発達障害のある子どもにとっても専門性の高い教師になっていくことができます。